



発行所  
カトリック長崎大司教区  
本部事務局  
〒852-8113  
長崎市上野町10-34  
カトリックセンター内  
TEL 095(846)4246  
FAX 095(842)4460

## 第三回 アジア巡礼所 責任者会議に寄せて

濱尾 文郎  
枢機卿

昨年まで議長として奉仕させて  
頂いた教皇庁移住・移動者司牧評  
議会では、巡礼の司牧に関わつて  
きました。

前回のアジアでの巡礼所責任者  
会議は韓国で開催され、それに議  
長として出席しました。評議会と  
しては、巡礼がキリスト者にとつ  
て非常に重要な行事であると認識  
しております。

巡礼は、普段住み慣れている土  
地、家屋を離れ、旅をするという  
神の民・教会の本来の姿を体験す  
る場であり、時間であるわけです。  
それはいつもの生活様式を離れる  
という苦勞も伴います。

そして巡礼所での歴史を経た聖  
人や奇跡の事実との出会いを通し  
て、まず神ご自身と出会う場なの  
です。

そのため巡礼所の責任者は、巡  
礼者が沈黙のうちに典礼や祈りを  
通して神と出会う環境を作り出す  
努力が必要です。宗教を持たない  
人でも、或いはキリスト教以外の  
宗教の人でも、キリスト教の宗教  
儀式に参加する機会が十分に与え  
られるべきなのです。他宗教の人  
や、無宗教の人々に、巡礼所の宗  
教を強制的に押し付けるのではな  
く、宗教儀式への参加に誘うこと  
で、どのような人々にも働きかけ  
る聖霊の場を残すべきなのです。

それぞれの巡礼所を訪ねながら、  
その土地に育った聖人の生涯を学  
び、現在そこに住む信者の信仰と  
文化をも学ぶことも出来るのです。  
自分が属する巡礼団の仲間ばか  
りでなく、他の巡礼者との出会い  
も得がたい体験となるでしょう。

このように巡礼は、神との出会  
いばかりでなく、新しい仲間や、  
他の巡礼団の方々との出会いの場  
でもあるのです。さらにそれぞれ  
の巡礼所で崇敬されている聖人や、  
長い歴史を経て、培われた伝統や  
文化からも多くを学ぶことが出来  
ます。

同時にその自然との出会いも

あるのです。このように巡礼は、  
神と人と自然との出会いの好機で  
もあるのです。それらを通して、  
自分自身との出会いともなるので  
す。

巡礼は、聖人などを通して、神  
が働かれる場です。聖霊は、ご自  
由に、望むとき、望まれる場で、  
人々に働きかけてくださるでしょ  
う。私たち教会は、そのような貴  
重な機会をおろそかにしてはなら  
ないと思います。

一八八殉教者の列福式の会場も  
長崎になることが、ほぼ決まっ  
ているようです。福者たちは全国に  
散らばっていますが、そのゆかり  
の地を結ぶ巡礼などが盛んになれ  
ば、こんなにすばらしいことはあ  
りません。

また、長崎の教会群が世界遺産  
にという話も聞きました。長崎に  
いま聖霊の風が吹いているように  
見えます。

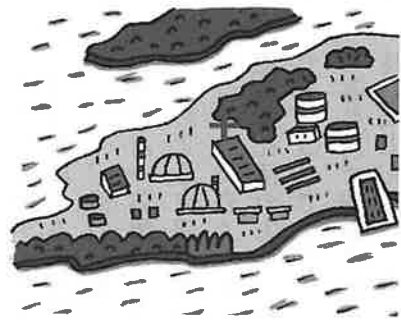
ちょうどその時、長崎でアジア  
巡礼所責任者会議が開かれ、アジ  
ア18カ国の方々が一堂に会するこ  
とは、神の摂理以外のなにも  
もないと思います。

(教皇庁移住・移動者司牧評議会 前議長)

# Q & A

## 第三回

### 「アジア巡礼所 責任者会議」



Q. 「長崎巡礼」ということばが聞かれるようになったこの頃、教会や巡礼所を巡る旅が盛んになっていることには、気づいていましたが、アジアにも巡礼ブームが広がっているのですか。

A. 巡礼という宗教行為は、祈りが宗教というものに分ちがちがたく付随しているように、宗教そのものに付きものです。

確かに近年になって、ブームというほどではないにしても、足を使って移動しながら心の旅をするということが関心をもたれるようになってきているようです。

特に、長崎では教会が世界文化遺産候補になったり列福式などが相次いで行われること

もあって、それに伴う動きとして浮上してきた側面もあります。

この度、アジアから18カ国の巡礼所責任者の方々が長崎に集まり、10月15日～17日までカトリック・センターにおいて「第三回アジア巡礼所責任者会議」が開かれます。

これは教皇庁難民・移住・移動者司牧評議会の主催によるものです。

Q. その会議では、どのようなことが話し合われるのですか。

A. 今回の会議は、第二回となりますが、テーマ

は「巡礼所 それは希望の場」となっています。やや、抽象的ではありますが、「希望」ということばを鍵として、話し合いを組み立てていくという意図がうかがえます。

具体的な事柄としては、アジアの参加国に広がる巡礼所を、将来的に一つのコースとして結ぶなどの動きを始めるために、連絡をとり合うシステムが提案される予定です。

時間はかかりますが、そうなれば、これまで聖地巡礼と言えば、それは、聖地イスラエルであったり、ルルドやファチマ、あるいはサンチャゴ・デ・コンポステラなどの世界的ブランドのコースでしたが、今度はアジアにもコースができるということになります。

長崎県内の巡礼コースは、もはや夢の段階を越えて、現実のものとなりつつあります。加えて列福式を機会に九州における福者ゆかりの地を結ぶコースも注目されてくるでしょう。

そうなれば、四国八十八カ所巡りならぬ九州一八八カ所巡りも夢ではないということになります。構想のみが一人歩きするのではなく、実際に一歩一歩これらのコースを踏み固めることによつて、わたちのように巡礼道ができていくことになるれば、これほど素晴らしいことはありません。

Q. 正式の巡礼所になるためには、権威ある筋からの認定のようなのが必要なのですか。

A. 厳密な意味では、世界にまたがる巡礼所の場合はローマ教皇庁が、その国全体にわたる場合はその国の司教団が、一つの教区内の場合は、その教区の司教が正式に認可することになっています。

長崎教区の巡礼所で、ローマの聖座に認定された場所としては、二十六聖人殉教地、浦上の十字架山、本河内のルルドがあります。なお、西坂の殉教地は、2002年4月27日付けで島本大司教によって、教区の巡礼所としても認定されています。「よきおとずれ」2002年5月号。

ただし、ローマの聖座による認定については、特別の記念行事にちなんだ期限付きのものか、恒久的なものか、必ずしも明確ではありません。このような権威筋による認定も大事ではありますが、人々の足で踏み固められた信仰の証こそ、民の心に刻まれた神さまによる認定ということができるでしょう。

Q. 今回の会議は、ローマ教皇庁の主催だということですが、なぜこのような事柄まで、本山である教皇庁がとり上げて推し進めるのですか。

A. 昨年まで、教皇庁移住・移動者司牧評議会の責任者であった濱尾文郎枢機卿は一面で、その理由を四、五点ほど記しておられます。

旅する神の民という教会の本来の姿を体験

するため、ゆかりの地の聖人や奇跡的事実との出会いを通して神と出会うため。

他宗教、無宗教を問わず、どのような人々にも働きかけておられる聖霊の場としての巡礼所の役割を大事にするため、他の巡礼者との出会い、そして、自分との出会いなど。

わたしたちは「小教区」という固定化した視点からしか教会活動を見ない傾向があります。が、教皇庁は「道の司牧」という動く視点からの司牧もあることを指し示しています。

教会は場所ではない。聖書に出てくるテサロニケなどの教会は、今日すでに廃墟となっている。教会とは神と人とで織り成す交わりだから、一定の場所にこだわるものではない。

6月の教区司祭黙想会の中で濱尾枢機卿はこのように熱意をこめて語られました。

世界にも教区内にも道を行く人々にかかわる仕事は数知れずあります。

サーカスやロマ（移動型民族）の人々に関する司祭がいます。ヨーロッパの空港にはチャペルがあり、司祭やボランティアの人々が常駐しています。そして、困っている人を待つのではなく、自ら見つけて声をかけるなどの奉仕をしています。道化師になって、寂しい子どもたちに笑いを与える役目を持った司祭がいます。

道を行く者（巡礼者）に寄り添うことは、教会の本質にかかわる活動でもあるのです。

お告げを受けてマリアさまはその足で100キロ以上も離れた、いとこのエリザベトの手伝

いに出かけました。この出来事は、イスラエルの民が、まだ移住・移動者だった時代に、移動の先頭に担いで、行く手を示した契約の櫃（ひつ）を象徴しているといわれます。

神を宿した者として、マリアさまご自身が契約の櫃であるというわけです。同時にそれは、神の住まいである人間の行動のあり方を示すものでもあるのです。

神さまと出会った者、あるいは出会いたい者は、自然に歩きはじめるというメッセージです。

「そもそも、人はなぜ巡礼するのか」。このテーマこそ実際に巡礼しながら思い巡らすことではないでしょうか。

巡礼の書とも言える、古典化している俳人松尾芭蕉の「奥の細道」の冒頭にあるように、どうやら人間は巡礼の風にさからうことはできないもののようなのです。彼は

「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。……予もいつれの年よりか、片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず」出かけたのでした。

聖書には「全世界へ行って福音を」宣べ伝えるよう勧められています。全世界とは文字通りの全世界であり、同時に自分自身の中の全世界でもあります。

自分自身の中の「どこから来て、どこへ」というテーマが「神から神へ」に結びつくのか。いま吹きはじめた巡礼の風に、まずは身を委ねてみたいものです。

## 新しい要理

# 「共に歩む旅」(8)

## 第六課 「人間の罪と神の愛」



【進行係】（参加者を歓迎して、十字架の印をしながら集いを始める）

「一人か二人の方が祈りで神さまをこの席に招いてくださいますか。」

（誰でも自由な祈りを捧げるか、以下の例文で祈ってもよい）

・主よ、この席に来てくださり、私たちの心をあなたの愛で満たしてください。  
・主よ、ここにおいでくださり、私たちの鈍い心を柔らかくしてください。

### A. 私たちの生活

#### 【進行係】

「どなたか次の話を読んでくださいませんか。」

【自分の生命の誕生そのものに罪を感じ・・・】

私は幼い時、自分達家族は何か大きな罪を背負っている。自分は幸せにはなれない；いや、幸せにはならない。そんな意識のまま大人になった。そして1983年、母が自殺。

兄は「満州」で生まれ、私は1947年に生まれた。父は、職業軍人として中国人を殺し、そして父達、関東軍将校と家族達は同胞の日本人を中国に置きざりにして帰国した。

この事実を兄から聞いたのが1991年…この時、自分の生命の誕生そのものに罪を感じ；すぐに、嫌がる妻を連れて中国東北部「旧満州」へ飛んで行った。

日本軍に油で虐殺された村人の遺骨の中に赤ん坊を抱えた母親が悶絶したまま息絶えている！

殺された中国人の「生首」を、己の誉れの為を持って笑っている…軍人の写真を見た。

そして、旅の最後…

『あなた達は日本人だろ。ここから大勢の中国人が「731部隊」や「日本」に連れて行かれ、今だに帰ってこない。日本人としてどう思う？』と、夜行列車のコックさんに問われた。

「C級戦犯」だったと聞かされていた父のその罪の中に、まさに私は、今も父の罪と共に生きている…いや、生かされているのだと思った。

そして、10年後の2001年「南京」へ行った。長江の虐殺現場で手を合わせた時、突然、目の中が真っ赤になり、ハチ割れる様な頭痛に襲われた。そして、「ウーウー」と唸る様な声に支配された。あまりの痛さにその場を離れた。すると、ウソの様に痛みが失くなったのだ。他の現場でも同じ事があった。この時、私は「南京大虐殺」と、向き合わねば…と、思った。いや、向き合わされたのだと思

う。渡辺義治（「地獄のDECEMBER」を語る）より）

【進行係】（参加者たちに質問する。）

①「南京大虐殺」について話し合ってみましょう。

②南京大虐殺と向かい合った渡辺義治氏の心境について話し合ってみましょう。

③職業軍人として、人を殺し、勝ち誇っていた人、その同じ人が妻をうつ病に追いやり、自殺にまで到らせるほどのいらだちと自己崩壊へと堕ちていく。この職業軍人は、何に勝ち、何に負けたと思えますか。

### B. 神のことば

聖書は、人間が神の愛を受けたにもかかわらず、その愛の中に留まらないで、かえって憎悪と貪欲でお互いに癒すことのできない傷を負ったと伝えていきます。

このような聖書のみ言葉は、家庭と隣人そしてわれわれの社会がかかえている痛みと苦しみの原因が、まさに間違った生活をしている私たち自身の中にあることを指摘しています。

罪は個人的な次元から社会的な次元までおよび、その種類と深さはとても多様なものです。

【進行係】「どなたか創世記4:1-16 (カインとアベル) を読んでくださいませんか。」

「ほかの方がもう一度読んでくださいませんか。」

【進行係】(参加者たちに質問する)

①カインは弟を殺すことによつてどんな結果を負うことになりましたか (10-12節参照)。

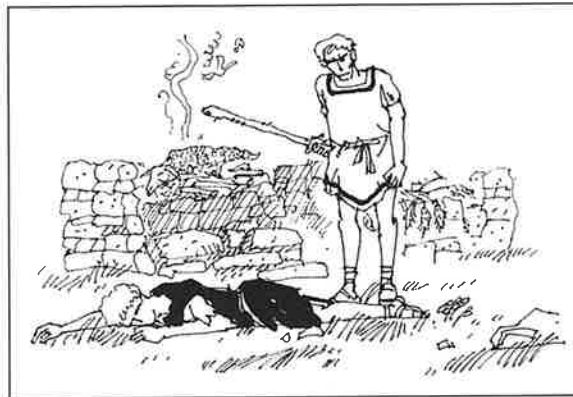
②神は罪を犯したカインに、どんな言葉を与えましたか  
その意味は何だと思えますか (13-15節参照)。

神は私たちを愛され、幸福と喜びを享受し、生活することを願っています。時々私たちが過ちを犯しても、神は自分のふところにもう一度帰ってくることを望み待っておられます。

悪人であっても、もし犯したすべての過ちから離れて、わたしの掟をことごとく守り、正義と恵みの業を行うなら、必ず生

きる。死ぬことはない。彼の行ったすべての背きは思い起こされることなく、行った正義のゆえに生きる。わたしは悪人の死を喜ぶだろうか、と主なる神は言われる。彼がその道から立ち帰ることによつて、生きることを喜ばないだろうか。

(エゼキエル18:21-23)



【参考聖書】

\*創世記 6:5-7:

人間の罪と神の嘆息

\*創世記11:1-9:バベルの塔

\*詩編51:1-19:ダビド歌

\*マタイ 5:43-45:

敵を愛しなさい

C. さらに一歩進んで  
旅をつづけよう

歴史の中で人間の大小の罪が積みも積もつてこの世の罪を作り上げます。その罪は私たちを苦しみに追い込み、お互いを傷つけ、分裂をもたらし、愛することができないようにします。自分の無能のせいにして嘆くとか、ほかの人を憎む怨恨の中には救いはありません。神の愛を悟り、「愛の文化」を成長させて行く時、初めて新たな未来が開けてくるでしょう。

【進行係】(参加者たちに質問する)  
①これまで生きてきた中で、人を傷つけるとか、関係をむずかしくしたことがありますか。  
私たちが改めなければならぬ点は何か。

②自分の過ちではなくほかの人や社会の過ちにより、困り、悩んでいる人々について考えてみましょう。そして彼らのために私たちが何をすることができるかお互いに話してみましょう。

【進行係】  
自由な祈りを捧げながら集いを終わりました。

【進行係りの心得】

\*いつしか自分中心になつていき、そのことに気づかない人間の弱さを知る。

\*自分の中の神の愛をつつみ込んで、他の人の方に向かわないようになつてしまふことが「つみ(罪)」である。  
「つみ」は「つつみ込み」から来る。

【覚えましょう】

17. 罪とは何ですか

\*罪とは、神の愛に背くことです。それは、さまざまに愛に背くことばや行いとして現れます。

18. 原罪とは何ですか

\*人間が生まれながらにして持つてくる心の傷で、キリストのいやしを必要としている状態です。そのいやしなしには、人は自己愛に支配され、人間解放に到達することはできません。

# 「発達障害」を知る

(4)

西村良男

君はどうしたの？



## 第二部 ADHD(その2)

### 注意欠陥多動性障害

#### 例2 乱暴になったジュン君

ジュン君は幼い頃から衝動性が強く手のかかる子でした。気に入ったおもちゃがあると、他の子が遊んでいても取り上げてしまいます。学習発表会などの練習は、みんなと同じようにはできず、教室からいなくなることも度々でした。3、4年生ころには先生から叱られることが多くなり、大声でわめいて先生に向かっていくこともありました。感情のコントロールがきかず、カッとなって他の子に乱暴してしまいます。理由を聞いても、「よくわからない」「知らない」という言葉しか返ってきません。周りの子どもたちは次第に遠ざかり、ジュン君は孤立状態になってしまいました。

学校でも家庭でも、ジュン君は叱られ通してした。「動いちゃダメ!」「どうして乱暴するの!」「何度言ったら分るの!」等々。お母さんも先生も少々疲れ気味になりました。4年生の時の先生はジュン君の行動を抑えるため、ジュン君の席を教卓の脇に固定しました。この頃からジュン君の乱暴が多くなってきたようです。

#### 「ジュン君への対応」

ジュン君は、頭で考える前に行動してしまいます。

6年生の時、新しく来た先生がジュン君の担任になりました。子どもたちをよくほめてくれる先生でした。ジュン君のことも十分理解してくれていて、トラブルを起こした時は、「君はどうしたかったの?」と、ジュン君の言い分をよく聞いて、「そうか。じゃあ、今度からこうすればいいよ」とか、「カッとなりそうになったら、その前に先生に教えなさい」などと、ジュン君に分り

やすく、しかも繰り返し教えました。また、ジュン君がパニックになった時は、他の先生に協力を求めて別室に連れて行き、興奮がおさまるまでそこで過ごさせるようにしました。

一方、クラスの子どもたちにも、「ジュン君を応援してほしい」と前置きして、分りやすい言葉を選びながらジュン君のことを話しました。そして、みんなもジュン君も納得の上で、教卓の近くにジュン君の指定席を設けました。ジュン君の行動を規制するためではなく、いつでもジュン君をサポートしやすくするためです。

ジュン君が徐々に変わってきました。ジュン君から遠ざかっていた子どもたちも、「ジュン君はどうしたかったの?」などと、先生を真似てやさしくたずねるようになり、次第に、ジュン君を支える側に立つ子が多くなったのです。





まとめ

A・D・H・Dを持つ子は、他の子に比べて落ち着きがなく、叱られる回数が多くなります。また、約束を忘れたり失敗したりすることも多く、他の人たちからは否定的に見られる傾向にあります。そのため、自信をなくして学習活動などの意欲を失くしたり、また、感情の抑制力が弱いために、カッとなって暴力を振ったりすることもあります。その結果、仲間はずれや集団によるからかいなどのイジメを受けることにもなりかねません。

ジュン君の場合、最初は、先生も親も周りの子どもたちも、ジュン君の障害についての知識がありませんでした。このことがジュン君を乱暴な子にしてしまったとも言えます。そんな時、新しくやって来た先生が、先ず、同僚の先生方やクラスの親たち、そして子どもたちに、ジュン君のことを正しく理解してもらい、支援と協力を求めたのです。その結果、ジュン君を見る周囲の

目は一八〇度変わり、ジュン君の行動も大きく改善されるようになったのです。

しかし、これで終わりではありません。ジュン君はこれから先も、多くの先生や友人と出会います。社会に出てからも人との関わりはずっと続きます。ジュン君のことを正しく理解し支援してくれる人たちが、ジュン君の周りには常に必要なのです。

発達障害を持つ子どもたちは、「ちゃんとしなさい!」「なんでそんなことするの!」などの否定的な言葉で多く叱られます。しかし、「ちゃんとしなさい」の「ちゃんと」や、「なんでそんなことを!」の「そんなこと」が、いったい何のことなのか分からないでいることも多いのです。

失敗をしたときには否定的な言葉ではなく、「こうすればうまくいくよ」と、具体的な行動マニュアルを簡潔な言葉で、その都度教えて身につけさせることが大切です。

また、その子の長所を生かした指導も効果的です。発達障害を持つ子たちは、自分の好きなことや興味のあることには、一般の子どもたちより何倍も熱心する傾向にあります。「できないことをできるようにさせる」という考え方はなく、「できることを、よりできるようにする」ことの方が遥かにうまくいきます。

そして、少しでもうまくできるようなになったら、その子に分るようにその場でほめることです。このことで、子どもは成功感を味わい、自信や意欲を持つようになります。これは、全ての子育ての原点でもあります。

《参考図書等》

- ・シリーズ「発達と障害を考える本」①～④（ミネルバ書房）
- ・「実力を出しきれない子どもたち」（NPO法人・えじそんくらぶ）
- ・「A・D・H・D これで子どもが変わる」（司馬理英子（主婦の友社））

《サイト》

- ・障害の基礎的理解  
— ADHDの対応 —  
・東京都教育委員会HP

《相談機関》

- ・各教育委員会の教育センター



子どもたちの問題行動の場面ばかりが出ていますが、発達障害の子がいつも問題行動をおこしているわけではありません。また、発達障害があるかどうかは軽々しく判断せず、相談機関や医療機関などに相談することが大切です。

このシリーズでは、発達障害の特徴的なさわりの部分だけを紹介し、もっと詳しく知りたい方は、書店で関係図書を求められるか、インターネットで検索して調べてみてください。

聖書

豆知識

## 黙示録について……



Q. 今年は典礼暦年から言うところですが、復活節の主日の御ミサにあずかっていて、ひとつ気付いたことがあります。それは、復活節第二主日から第六主日にかけて、第二朗読の時に、いつも「ヨハネの黙示」が読まれていたことです。実を言つと、「ヨハネの黙示」を読むことに抵抗を感じます。それは、読んでもよく分からないことがたくさんあるからです。内容も然ることながら、特に、意味の判らない現象や、数字や、色や、動物などが記されていて、一体それらをどのように解釈したらよいのか明確ではありません。そこでまず、「黙示」とは如何なるものなのか教えて下さい。また、そうしたしるしが何を意味しているのか説明して下さい。

(前号の続き)

A. 今回も前号に引き続き、ヨハネの黙示について解説していきます。前回、黙示文学について説明し、そして「宇宙的シンボル」のみ簡単に触れてみました。今回は、その続きを話していきます。「宇宙的シンボル」に次いで挙げられるシンボルは、人間の世界から汲み上げている「人間のシンボル」と言えるものです。ヨハネの黙示の著者は、人間の歴史を人間が時間とともに変わって行く「推移、変遷」として捉え、人間生活の様々な要素に大きな関心を示しています。人間は個人(体と魂からなる一個体)として存在し、また人間共

同体の一員として生きています。そうした人間の命や生活に著者は目を留めながら、人間にまつわる多くの表現を用いているのです。例えば、「命」のような人間の生命の象徴、また「血、目、耳、歯」などのように人間の身体の象徴、「愛、怒り」など人間の感情の象徴、「裸である、見えぬ、花嫁、花婿」など人間の状態の象徴、「衣、街、婚宴」など人間生活・活動の象徴があります。こう見ると人間のシンボルも多岐にわたっています。この人間が、復活したキリストの終末的な命に与かるように、歴史の中を歩み続けているのです。

「人間のシンボル」とは対照的に、様々な動物や生き物に象徴される「動物的シンボル」が次に挙げられます。この書に登場してくる動物や生き物を見てみると、まずその特徴として、この宇宙や自然界に普通に見られる存在と、そうではない存在との区別がはっきりしています。例えば、「小羊、獅子、鷲、馬」などは私たちがよく見知っていますが、しかし「竜」は架空の生き物であり実在していません。さらにそういう相違以上に、著者はそれらの動物の中により大きな区別を置いておられるように思われます。その動物のイメージとその存在がどのような影響を及ぼすかによって、善なる肯定的な動物(小羊、生き物)と悪なる否定的な動物(竜、野獣)に分けられます。彼らの行為は、特に人間とその歴史に影響を与えています。しかし常に神はその全てをご存知であり、神の支配の中で展開しているのです。

そしてまた、多くの数字が出て来ることも気付きます。それらは量的な数字ではなく、質的な価値を数字で表しているのです。これを、「算術的シンボル」と呼ぶことが出来るでしょう。そしてその数字が、大きな意味を持っているのです。

例えば、「7」という数字は、それが関係する内容の十全性・完全性を示しています。「12」は旧約の十二部族あるいは新約の十二使徒を表わし、「24」はその旧約の十二と新約の十二(旧約の十二部族と新約の十二使徒)の総計を表わしています。「144000」という数字も出てきますが、これは $12 \times 12 \times 1000$ と考えられます。この1000については、人間の歴史の中にある神の民に対して、神の積極的な存在が千年継続するというふうユダヤ人たちの中で考えられていました。その1000なのです。このように、数字そのものがそれぞれ実質的な価値を持っているということなのです。

最後に、色をもつて示される「色彩的シンボル」を挙げる事が出来ます。色彩によって示される象徴は、霊的あるいは倫理的特徴を説明しているのです。例えば、私たちの御ミサの中でも「白」が復活節に象徴的に使われますが、ヨハネの黙示の中でもキリストの復活にまつわる色として理解され、彼の神性を現しているのです。言い換えるならば、それは復活したキリストのメシアとしての姿と力を象徴しています。また「赤」の色彩も出てきます。この色は肯定的な内容と言うよりはむしろ、否定的な内容で使われているようです。それは、典礼的な殉教者の血やキリストに対する情熱を示す赤とは異なり、歴史的出来事の中で人間に働きかける悪魔的存在を示しているのです。

これまで見てきたように、様々なシンボルはヨハネの黙示の解釈に豊かさを与え、特定の価値観を私たちに提示しています。直接的に説明するよりは象徴的なしるしを用いることで、神とキリストの秘義が重厚に表現されているのです。

(湯浅 俊治)





## スポンサーは神様だから・・・

夫58歳 私55歳、2年前に長年続けてきたサラリーマンと音楽教師を辞め、カフェ経営という新しい仕事にチャレンジしています。

きっかけは突然訪れた私の病。もしかしたら「死ぬのかも」という大きなショックが二人の第二の人生をスタートさせたのです。

三ヶ月間の闘病生活で私を支えてくれたのは、夫をはじめ沢山のお祈りと、自宅でカフェを開くという夢でした。

以前から忙しい仕事の合間に、人を招いて食事をしたり、自宅でコンサートやギャラリーを開くのが好きだったので、趣味をそのまま仕事にしようと思ったのです。

せつかく助かった命を、今までと違った形で生きてみようとして二人で決心しました。これからは、ゆっくりした時間の中で人とかかわってこう・・・疲れた人がゆっくり休める空間を作れたら・・・

ところがオープンしてみると想像以上にハードな仕事でした。ランチタイムに沢山のお客様が来られた時は、必死で手を動かしながら「めぐみあふれる」を祈り、パスタのタイマーを止める度に「神に感謝」お客様が笑顔で帰られる時「神に感謝」・・・一日に何回も射祷を唱えます。初心者の私たちの仕事をカバーしてくださるのは神様だからです。

第二の人生をサービス業、人に仕える仕事を選んで良かったと思います。周りはきっと不安だったと思います。安定した収入を捨て未知の世界へ飛び込むのですから。決心した時、私の頭に浮かんだ言葉は「スポンサーは神様だから大丈夫！」

これまでも沢山困難に出遭いましたが、いつも神様が助けて下さいました。大きな病気でさ

え、次の夢の実現の為に用意して下さったお恵みです。私たちが作る空間に訪れる人が、幸せな時間を過ごせますように・・・できたら神様と出会うきっかけがみつかりますように・・・

8月から9月の初めには、私達のカフェで、菅井日人写真展をしました。菅井さんの写真が大好きだった私は、菅井日人写真展「アッジの春祭り」を福岡に観に行きました。アッジには数年前に行って、あこがれの地でしたので、幸せな気持ちに満たされました。「長崎の人達にも見せたい」思わず菅井さんの奥様に言ってしまいました。となりにいた私の夫はびっくり！大胆なお願いを聞き入れていただき実現したのです。

神に祝福された平和な街アッジの春祭り。美しい写真に感動されているお客様とアッジの聖フランシスコの話をする事ができました。

自宅をそのままお店にしているので祭壇やマリア様の御像もそのまま。聖書や霊的読書が出来るようさりげなく工夫もしています。

「いらっしゃませ」の言葉から始まる出会いの瞬間、声には出しませんが「守護の天使さん」とつけ加えることにしています。信者の人もそうでない人も、きっと守護の天使と来ているはずですから。この仕事をとおして、沢山の人々と出逢い、語らいの中で私達夫婦も神様と出会う事ができます。

開店して一年半、お客様が多いときは疲れませんが、ありがたいと感謝、少ない時はゆっくり二人の時間を楽めるので感謝、み旨のままに・・・スポンサーである神様を、お喜ばせできる仕事をしていきたいと思っています。

今村美寿江





# 188殉教者列福への 取り組みは？

6月3日に188殉教者の列福の教皇裁可がでて、いよいよ、列福式に向けての準備が始まっている。

全国レベルでは、今年の2月に「殉教者を想い、ともに祈る週間」として、各家庭に向けて手引き(冊子)が配られ、2月4日～11日にかけて、祈りの時をもった。長崎教区では、各地区、小教区、委員会ではいろいろな取り組みが行われている。

そこで今回は、列福を前に取り組みまれてきたこと、また、これからの取り組みなどを少し紹介してみたいと思う。

## ◆ 地区レベルでは・・・

**\*平戸地区**  
ザビエル生誕500年を記念して、三回の講演会が企画された。

2006年11月26日、古葉師が、ザビエルから188殉教者までの日本の教会の歩みと今後の課題について、聖母マリアの模範を聖書から読み解きながら話した。

2007年2月4日、溝部司教が、188殉教者列福の意義と列福申請までの経過について説明し、教会が活性化され、刷新されていくように力を合わせるよう訴えた。

3月11日、デ・ルカ・レンゾ師は、188殉教者の中から生月の「ガスパル西玄可とその家族」を取り上げ、家族の絆という観点から今回の列福の意義について話した。今日の教会が直面している困難の一つに、子どもに信仰を伝えることがあるが、殉教者たちも同じ労苦をして信仰を伝えた。

生月島では、教会から離れたところに住んでいる信者たちが、自分の子どもの要理や祈りのために、もう一つの教会を建てることを切望し実現した例を挙げながら、殉教者が示した信仰における家族の絆こそが、今、私たちが学ぶべきことであると強調した。

## ◆ 小教区では・・・

**\*浦上教会**

「殉教者を想い、ともに祈る週間」の冊子をもとに、「8日間の黙想と祈り」のテーマを「8ヶ月間の黙想と祈り」のテーマとし、4月から順次、一つのテーマを一ヶ月ずつ黙想し祈っている。

その黙想の手助けとして・・・

- ① 月初めの日曜日の説教では、その月のテーマについて解説を行う。
- ② 祭壇の両側には、その月のテーマを大書して掲げる。
- ③ 主日、及び平日のミサの中では、「188殉教者の列福を求める祈り」を唱えている。
- ④ 毎月開かれていた各地区的集会においては、司祭が同席し、各家庭に配布されている「殉教者を想い、ともに祈る週間」の冊子をテキストに用い、殉教者の精神に触れ、信仰の高揚を図っている。

## ◆ 各委員会では・・・

**\*信仰教育委員会**

各小教区の事情に沿って、教会学校で、子どもたちに殉教者についての話をし、絵や作文のコンクールを実施する計画で、優勝者には「大司教賞」を授与したい。また、選ばれた絵を使って祈りのカードを作成したい。もうすでに、黙想会などで、

取り組みを始めている小教区もある。  
もう一つは、子どもを対象とする殉教者を紹介する冊子を発行することを検討中である。

## \*青少年委員会

「創ろう、188殉教者をたたえるほくらのソング」というテーマのもと3月26日・27日にかけて、高校生研修が行われ30名の高校生が参加した。一日目に雲仙の殉教地へ巡礼を行い、188人の殉教者に想いをはせながら黙想し、各々がその想いを書き綴り、川原師がこの日のために作った曲に合わせて作詞をし、完成した。これによって、意識もたかまり、次への歩みへと繋がっている。

また、青少年委員会、ホームページを立ち上げることによって、情報交換の場にした。

## \*召命委員会

「青年のための巡礼ウォーク」が5月3日・4日にかけて開催され、18名が参加した。テーマは「ガリラヤへ行きなさい」。かつての日本の教会の中心地であり、多くの殉教者を輩出した島原半島を巡礼し、殉教者の生き方を心に受け止め、今後の信仰生活に生かしたいとの決意を語り合っていた。



中浦ジュリアンの像 (島原教会)

## — 宣教委員会 —

# 広島巡礼に参加して…



長崎大司教区では、去る8月5日～6日、1泊2日で広島平和巡礼に総勢46名が参加した。異彩を放ったのが25名の10代、20代の若者たちである。しかもその中に洗礼を受けていない10代の男女2名の姿があった。

初日、先人たちが苦勞し暗誦したラテン語で口ザリオを唱える。若者たちはラテン語で祈るのは、初めてとあって、巡礼のしおりにあるラテン語の祈りを一心不乱に唱えた。ある若者は集中して祈ることが出来、ロザリオ一本を唱え終わるのに短く感じたと言、他の者は昔の信徒は偉かったとね、と感想を述べた。

広島に到着後、先ず殉教地を詣でた。この殉教地は、教皇庁より、188名列福の裁可が下された中の3名が殉教した所である。殉教者たちの歴史に耳を傾けながら祈り、聖歌を歌う中で、真実というものがこんなにも人の心を動かすのか、キリシタンの堅い信仰をいっばい詰め込んだ殉教者たちの本物の信仰感情は、380余年経た今日も響き亘っていた。

炎天下で祈る巡礼者は、殉教者たちの痛みと原爆の熱線で焼かれた被爆の痛みを肌で少し感じた様子だった。

夜の平和行進、それに続く広島カテドラルでのミサは、長崎の若者にとっては興奮の連続であったようだ。長崎のたいまつ行列、それは肅々とした祈りの行列だが、広島の場合、日本各地から参集した若者達で溢れ、横笛、ギター、ハモニカ、小太鼓などで演奏し、参列者の歌声はそれに呼応し、飛び跳ね、走る。歌声は広島のアークード街を揺り動かし、居並ぶ警官の声も途切れがちである。長崎からの参列者は今回始めてペーロン船のドラと權を持ち込み、長崎市のハッ

ピを全員着込んでの参列であった。田螺の眩きであった若者たちも少しずつ雰囲気に慣れるに従い、体を動かし、歌声もボリュウムアップ・ヒートした。熟年のご婦人たちに負けじと全身を動かし、ありつたけの叫び声を挙げ全員が燃えた。ペーロン船のドラの持ち込みは前もって広島警察署の許可を得ていたので、バチを握る手にも力が入り、前を行く大阪教区のギター演奏をかき消した。行進に続くミサ奉献も参列者の心を揺り動かした。

溝部司教様は、話しの中で、188殉教者たちと対話しながら平和を祈り求めよう。真の平和は神の愛の中にあると締めくくった。

平和の挨拶では、握手、抱擁、会話と5分間にも及び、聖体拝領の時は、ジョンレノンの「イマジン」が独唱される中、行列が続いた。

翌朝、原爆投下時刻の8時15分、全員で黙禱後、広島を後にし、下関の長府教会で、主任神父様を始め地元信徒達も参加しミサ奉献。昼食は地元の婦人部の手作り料理を頂きながらの分かち合いで、心身ともに満ち足りた中で帰路に着いた。

参加者たちの中には、来年も参加するとの声が多かった。

### 《お詫びと訂正》

本紙、第30号・31号の発行年が2008年となっておりましたが、2007年の誤りでした。ここに訂正し、お詫びいたします。

# 生活教会 の中の



大浦天主堂・大浦教会堂

フォトプラン 山本 富夫

## 威光

南山手に建つ新旧の教会堂。他の遺構と共に幕末からの歴史を醸し出す。一八六三年一月、フェリス師が来崎、天主堂建設へ。八月、フチジャン師着任。六四年十二月完成。

翌年二月十九日献堂。三月十七日の昼下り、劇的な出会い。五月には五島、外海、神ノ島、大山、黒島から訪れ、六月までに二十数ヶ所の信徒たちが来たという。

信仰復活から百年後の一九七五年、新教会堂建立。

信仰の復活を支えた宣教師も信徒も皆、この地に立った。爾来、長崎の信仰は紡がれている。